

(認定番号 第 022 号)

‘備中天神桜(ビッチュウテンジンザクラ)’

*Cerasus jamasakura* ‘Bitchu-tenjinzakura’

2020年3月10日認定 申請者 風致園を守る会



この桜は岡山県高梁市備中町にある風致園に植栽されています。風致園は江戸時代の宝永5(1708)年頃に庄屋の赤木蔵忠が本宅の前庭として築造したもので、その頃に植樹されたと推定されることから樹齢は約300年以上といわれています。樹の大きさは、樹高8.0m、幹周2.4m、枝張は東西17m、南北11m。桜は様々な個体間で交雑して種子が作られ、その種子から育成された個体は全て異なる特性を保有しています。そうした個体のうち、人が何らかの価値を見出して固有名詞を与えたものが園芸品種です。今回の桜はヤマザクラの一個体で、形態的には他と区別される際だった形質がみられないものの、地域に縁のある場所で古くに植栽された由来をもつ古木であることや、赤芽白花で観賞性が高いことから新しい園芸品種として認定しました。品種名の‘備中天神桜’は、菅原道真公を祀る天神社が桜の植栽地にあること、明治時代以前の地名である「備中」を冠することで地域の活性化を図るシンボルにすることを目的に命名されました。今後は、風致園とともに原木の保全を図りながら、接木などにより苗木を育成して地域の桜の名所づくりに寄与することが期待されます。

---

## 認定品種の特性詳細

落葉性の高木で樹形は傘状、樹幹の色は灰色で光沢はない。皮目の並び方は横並びで、気根はない。枝の太さは中、色は灰白色で新梢に毛はない。葉全体の形は狭長楕円形、先端は鋭尖形、基部は鈍形、葉縁鋸歯は単鋸歯、先端は芒形で腺がある。葉の長さは9～14cm、幅は5～6cmで厚さは中。成葉表面の色は緑色、裏面は白色を帯び、両面とも無毛、側脈数は8～10、葉柄の長さは約2.7cm、無毛。成葉の蜜腺は葉柄上部にある。花序は散房状で一花序に3～5花、花の向きは横向き、一重咲で開き方は平開形となる。花の大きさは直径3.2～3.8cmの中輪、蕾の色は淡紅色、開葯時の色は白色。花弁全体の形は楕円形、先端の切れ込みは少、基部の形は鈍形、旗弁はない。花弁表面のしわは少、花弁の脈は目立たない。花弁の長さは約2.0cm、幅は約1.4cm、花弁の厚さは中、花弁数は5個。雌ずいの長さは約1.5cm、雌雄ずいの長さの比は同長、数は1本、花柱は無毛、雄ずいの長さは約0.9cm、数は37～41本、がく筒の形は長鐘形で無毛、がく裂片は披針形で鋸歯はなく、無毛、色は紅褐色。花柄は約1.5cm、小花柄は約1.4cmで無毛。苞は、全体の形は倒卵形、鋸歯は鋭形でやや外巻となる。花の香りは殆ど無、展葉期と開花期は同時、通常開花期は4月中旬、‘染井吉野’の後に開花する。

